



子ども食堂助成金事業報告書

1 実施内容

年間開催回数合計	7回
参加者数合計	子ども 299 名、大人 98 名
実施した居場所づくり活動の内容 ※宿題等の自主学習の支援、地域住民との交流、子ども同士の遊び体験等	今年度はコロナウイルスの影響により、「子どもサロンにこ寺子屋」ができない状況になり、宿題等の自主学習の支援、地域住民との交流、子ども同士の遊び体験等が提供できなかったが、「ハリーレストラン」とイベントを一緒にして、配食を行うなどニーズに合わせて活動を行った。「3・11笑顔」の時は地域の方ばかりでなく、若林区の子どもたちも来てくれて、広がりのある活動が実施できた。
子どもや保護者との関わりの中で福祉的な課題等について気付いた点	<p>子ども食堂が「子どもの貧困問題」を緩和できる一助になればと願って活動をしている。</p> <p>子どもたちが育つ上で、親のすべきこと、大切なことは・・・『ごはん・声がけ・いっしょ』だと思います。しかし、「ごはん」を食べるという習慣づけができていない家族、特に朝ごはんが用意されていない子どもも多いです。朝コンビニで買ったものを車の中で食べる朝ごはんの親子もいます。「宿題はやったのか。学校からの連絡はないか。明日の準備はできているのか。」などと声がけをして、できていなかったときや忘れていたことがあったら、「いっしょにする」ことを放棄している親もいます。自分の都合で動いてしまう親に翻弄されている子どもの状況も見られます。今年度はコロナウイルス対応のために、方向を変えて「にこ 寺子屋」は中止し、「ハリーレストラン」を行った。新たな一歩にはなっているが、本来「ごはん」が必要な子どもたちがまだまだ足を踏み入れてない状況でもあるので、工夫する必要がある。今後は 基本的な生活習慣が身につけていない子どもが多々いることを鑑み、学習支援と家庭支援の相互関係を踏まえて行っていく必要がある。</p> <p>課題は多々あるが、 本来の「子ども食堂」の目的・・・ 「ハリーレストラン」に来たみんなが、笑顔になって帰っていく・・・ことを目指して活動をしていきます。</p>